

とちぎ高等教育推進まちづくり会議

令和4年度第2回総会

日時： 令和4年10月18日（火）

10：30～11：10

場所： 帯広市役所10階 第6会議室

1. 開会

【米沢会長挨拶】

- 皆様には、日頃から、本会の取り組みに多大なるご協力を賜り、この場をお借りして、厚く感謝を申し上げます。
- 十勝・帯広における高等教育の取り組みにつきましては、今から11年前の平成23年に、それまでの大学誘致の取り組みの反省に立ち、「地域の発展のための高等教育」という取り組みの意義を明確にした上で、食や農といった地域の優位性を活かし、まちづくりとの連動を進めながら大学の整備につなげていくことを皆さんと確認し、これまでの取り組みを進めてまいりました。
- まちづくり会議におきましては、十勝一体で進めるフードバレーとちぎと動きを合わせながら、地域に必要な人材像について皆さんと議論し、食や農の分野で地域を牽引する人材の育成や帯広畜産大学の機能充実につなげてきたところであります。
- とりわけ、帯広畜産大学は、世界に目を向けて教育・研究活動に取り組み、国内外の大学とネットワークを広げております。この地域にとって大きな強みであり、フードバレーとちぎを牽引してきたと認識しているところであります。
- 本日は、これまで進めてきた11年間の取り組みについて、委員の皆様と確認し、今後の十勝・帯広における高等教育の取り組みについてぜひ忌憚のないご意見をいただきたいと存じます。
- 結びに、本日もご参会の皆様には、本会の活動に対し、引き続きご理解・ご協力を賜りますようお願いを申し上げ、開会にあたっての挨拶といたします。本日は、どうぞよろしくお願いたします。

2. 議題

(1) 十勝・帯広の高等教育の充実に向けたこれまでの取り組みについて

【事務局説明】(資料1)

- 資料は「十勝・帯広の高等教育の充実に向けたこれまでの取り組みについて」と題し、資料1から3までございます。資料1が本編です。資料2は、資料編として、これまでの会議の開催状況や議論経過を時系列にまとめたものと、ポイントとなる資料を付けております。資料3は資料1の概要版となっております。
- それでは、資料1の本編について説明致します。

- 1ページ目をご覧ください。まず、今回、これまでの取り組みをまとめた目的を説明します。
- 十勝・帯広における高等教育の充実に向けた取り組みは、これまで、まちづくり会議の皆様からご意見をいただきながら、また、都度、取り組みの方向性を確認しながら、進めてきたところです。
- 平成23年度の「方針転換」から10年が経過したところではありますが、方針転換の際にも、10年という期間を示して取り組みを進めることとしており、今後の取り組みのあり方を検討するタイミングであると考えております。
- 今後の取り組みをどうするべきか、ということを検討するにあたり、まずは、これまでの取り組みを振り返り、その成果等を確認することが大切であると考えております。
- 方針転換の際に、皆さんと確認した方針とはどのようなものだったのか。そして、その方針に沿って、何をやってきて、何ができたのか。それを皆さんと確認することが今回の目的です。

- 2ページ目をご覧ください。方針転換について、確認します。
- 平成3年度から平成22年度まで、「人口対策」、「若者の定着」ということを主な目的として、帯広市に新しい大学を整備することを目指し、主に首都圏を中心とした私立大学の誘致に取り組んできましたが、実現しなかったところです。
- 平成22年度に行った取り組みの検証では、実現できなかった要因として、「18歳人口の減少や大学間競争の激化」、「大学誘致において、分野等を明確に絞れず、戦略が立てにくかったこと」、「地域特性・優位性を十分に生かすことができなかったこと」を挙げています。

- 3ページ目をご覧ください。今、申し上げた検証結果を受けて、平成23年度に、まちづくり会議の前身である十勝大学設置促進期成会で決定した方針転換の内容になります。
- それが、「帯広畜産大学を核に地域特性・優位性を活かし、まちづくりと連動させながら、段階的に高等教育機関の整備をすすめる」という方針です。
- なお、当時、「看護系大学の設置」や、地方の医師不足の課題から「医科大学の設置」についても議論がありました。これらは社会ニーズ、課題から出てきた議論でありましたが、整理すべき多くの課題があることやハードルが極めて高いこと、「地域特性・優位性を活かす」という考えとは異なるものであることから、大学設置の件とは別に、手立てを考えて行く必要があると、整理されたところです。

- 4 ページ目をご覧ください。方針転換の前後における取り組みの比較になります。
- 方針転換前は、「人口対策」、「若者定着」を目的として新しい大学の設置を目指しておりましたが、方針転換後から「高等教育を活用したまちづくり」へと目的を転換しました。

- 5 ページ目をご覧ください。
- 先ほど申し上げた平成 23 年度に示した方針転換を受けまして、平成 24 年度の総会において、取り組みの方向性を決定しております。方針転換で示した内容を具体化したものです。
- 新しい方針で「地域特性・優位性を活かす」とありましたが、この地域の特性や優位性は「食」や「農業」にあり、それらを活かすということです。
- また、方針で示した「段階的に高等教育機関の整備をすすめる」という部分については、まずは、地域で活躍する人づくり、国内外の大学や企業、人材の集積など、高等教育周辺の環境づくりを進めていくこととしました。
- そして、その取り組みの成果が表れ、新たな学部や学科、大学院などの必然性が生まれてきたときに、地域が必要とする高等教育機関について検討の段階に入っていく。こうした方向性が決定されたものです。

- 6 ページ目をご覧ください。
- これまで申し上げた平成 23 年度の方針転換や、方針転換後の取り組みの方向性などについては、まちづくり会議の前身である十勝大学設置促進期成会において決定してきたところです。
- なお、この期成会は、十勝に大学を設置することを目的としており、教育や産業など幅広い分野の皆様が会員となっております。現在のまちづくり会議においても、十勝の発展に必要な人材育成や 高等教育機関の整備・充実を図ることを目的としていることから、期成会の構成を受け継ぎ、今いらっしゃる皆様に参画いただいているところです。

- 7 ページ目をご覧ください。方針転換後の、これまでの主な取り組み項目です。
- 先ほど説明いたしました、5 ページの方向性に示された（1）地域で活躍する人づくり、（2）国内外の大学との連携、（3）企業、人材の集積の 3 項目に整理しております。
- これらの具体の取り組みは、帯広畜産大学を中心として進められてきております。
- その中で、まちづくり会議は、地域のニーズを反映する議論のプラットフォームとして、地域の発展に特に重要な人材育成を重点テーマとして定め、企画・事業部会で議論を重ね、帯広畜産大学や帯広市の取り組みにつなげてきたほか、帯広畜産大学の整備・拡充に向けた国への要望活動を実施してきております。

- 次のページから具体の取り組みを記載しておりますが、7 ページの 3 つの取り組み項目に、まちづくり会議において検討テーマとなった「人材の活躍の場・環境づくり」の項目を加えて、4 つのカテゴリーで整理しております。
- 8 ページをご覧ください。まず、1 つ目の項目、「地域で活躍する人づくり」です。
- 8 ページから 10 ページで、まちづくり会議の中で、重点テーマとして議論をしてきました「食品安全管理のスペシャリスト養成」、「地域連携による国際水準の獣医師養成」、「アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成」について説明します。

- 8ページの「食品安全管理のスペシャリスト養成」では、令和2年の食品衛生法の改正による食品事業者へのHACCP導入の義務化を見据え、まちづくり会議の取り組みにおいて、有識者や地元企業との意見交換や、地元企業に対するHACCP導入に関する意向調査を実施しました。
- また、帯広畜産大学においては、大学院カリキュラムにおける国際水準に適応した食品安全マネジメント教育プログラムの実施や、帯広市との共同事業であるフードバレーとかち人材育成事業における食品安全管理コースの実施、三大学経営統合関連事業である「HACCP・食品安全プログラム」の開催など、具体的な人材育成の取り組みが進められました。

- 次に9ページです。
- 「地域連携による国際水準の獣医師養成」については、帯広畜産大学と北海道大学が国際認証の取得を目指していた共同獣医学課程に関し、企画・事業部会において、当時の倉園副学長から情報提供をいただきました。
- 帯広畜産大学の共同獣医学課程は、令和元年12月にオーストリア・ウィーンで開かれた欧州獣医学教育機関協会で国際認証の取得を承認されました。これはアジアで初の国際認証の取得となりました。

- 次に10ページです。
- 「アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成」については、十勝で高い経営感覚を備え、高付加価値化や販路拡大等を先導するマネジメント人材の育成が必要であるという考えから、企画・事業部会において、先進事例の調査研究などを実施したほか、フードバレーとかち人材育成事業において、経営論や企業戦略論によるビジネスコースを実施してきております。
- なお、フードバレーとかち人材育成事業については、平成24年度の開始から令和3年度まで、受講生が2,000名を超えており、修了生は681名となっております。

- 11ページは、帯広畜産大学におけるリカレント教育の取り組みです。臨床獣医師を対象とした生産獣医療技術研修、企業との連携事業である帯広畜産大学デリースクールなど、産業界の育成に向けたリカレント教育が進められました。

- 次に12～13ページが、2つ目の取り組み項目、「国内外の大学との連携」です。
- 12ページをご覧ください。
- 帯広市においては、国内大学に関する調査研究の取り組みとして、主に首都圏の大学からのインターンシップや視察の受け入れ等を実施しました。
- 帯広畜産大学においては、獣医・農畜産分野の開発途上地域への国際協力事業の質の向上や、国際貢献、学術研究及び教育の発展に寄与することを目的に、JICAとの連携協定に基づく国際協力活動を展開されました。
- また、地球規模の課題解決を目指す国際的視野を備えたグローバル人材の育成に向けた取り組みが実施されました。

- 13ページ目です。
- 帯広畜産大学における海外大学等との学術交流協定の実施状況です。例としまして、コーネル大学、ウィスコンシン大学との連携協定においては、所属教員を中心とした人材交流を通じ、

獣医農畜産融合の国際共同研究を実施されております。また、皆さんご存知のとおり、本年4月には、帯広畜産大学、小樽商科大学、北見工業大学の経営統合により、北海道国立大学機構が創設されたところです。

- 次に14～15ページが、3つ目の取り組み項目「企業、人材の集積」です。
- 14ページ目をご覧ください。
- 帯広畜産大学では、企業との共同研究の実施、講義・実習担当講師の派遣、学生のインターンシップの受け入れ、大学院への社員の社会人入学などを目的に、インキュベーションオフィスを設置しており、現在15社が入居していると伺っております。
- また、帯広畜産大学産学連携センターの活動報告書によると、受託研究・共同研究の受入実績は平成29年度以降、年間130件以上となっており、着実に企業の集積が図られていると考えております。

- 次に15ページです。
- 帯広畜産大学は、敷島製パン、カルビーなどの国内大手の食品メーカーの他、北海道内の研究機関や地元企業などと連携協定を締結しております。
- そのうち、カルビーや帯広商工会議所などは、寄附講座を開設されております。
- また、十勝の19市町村や帯広畜産大学、試験研究機関、農林漁業団体、商工業団体、金融機関で構成されるフードバレーとかち推進協議会において、企業と大学、研究機関等とのマッチングなどの取り組みが行われているところです。

- 次に16～17ページが「人材の活躍の場・環境づくり」です。
- 16ページをご覧ください。
- まちづくり会議において議論テーマとして取り上げ、講師招聘などにより先進事例の調査研究を実施したほか、国内大学の取り組み事例に関する情報収集を実施しました。
- また、帯広畜産大学と帯広市においては、具体的な取り組みとして、「学生と地域がつながるまちづくり支援事業」を実施しております。学生が十勝について学ぶ地域連携型授業「とかち学」の実施や、学生が地域の経営者と交流し学ぶ「十勝旅」、地元企業と課題設定を行って実施する「学生と地域企業の共同研究」などに取り組みました。

- 17ページをご覧ください。帯広畜産大学による地域振興・社会貢献による取り組みです。帯広畜産大学においては、帯広農業高校や更別農業高校との高大連携事業の推進や、おびひろ動物園におけるサテライトブースの設置、障がいのある人を対象とした乗馬体験事業など、多くの社会貢献の取り組みが実施されております。
- 以上が、これまでの主な取り組みです。

- 最後に、18ページをご覧ください。
- 方針転換後、10年間の取り組みの総括となります。
- 地域発展に必要な高等教育機関の整備・充実に向けた取り組みについては、先ほど主な取り組みで説明しました、4つの項目に分けて総括しております。
- 繰り返しになりますが、平成23年度に示した方針は、「地域特性・優位性を活かし、まちづ

くりと連動させながら、段階的に高等教育機関の整備をすすめる」というものでした。

- そして、この方針に基づく取り組みの方向性は、「地域で活躍する人づくり」、「国内外の大学との連携」、「企業、人材の集積」、「人材の活躍の場・環境づくり」となっております。
- 「段階的に高等教育機関の整備をすすめる」としていましたが、はじめの段階、「高等教育周辺の環境づくり」に関しては、充実してきているものと考えております。
- これらの方針、方向性に沿って取り組みを進めてきたことにより、人材育成の体制整備が進んだほか、国内外の大学との連携や、地域内外の企業との連携が進み、十勝・帯広の知の拠点形成が推進されているとともに、高等教育を活用したまちづくり、地域の発展に寄与しているものと考えております。
- このことは、高等教育周辺の環境づくりが進み、「高等教育を活用したまちづくり」という目的に対して、成果が表れているものと考えております。
- 一方、方針転換後の当初には、こうした人材育成、国内外の大学との連携、企業等の集積の成果によって新たな学部や学科、大学院などの必然性が生まれ、地域が必要とする高等教育機関の検討に入っていくことを想定しておりましたが、現時点で、「新しい大学や大学院などを整備する」という議論を行う状況に至っていないものと認識しております。
- 今後については、今回の取り組みの総括に対するまちづくり会議の皆様や市議会からのご意見、また、大学を取り巻く環境を踏まえ、十勝・帯広の高等教育の取り組みのあり方について検討していく必要があると考えております。
- 説明は、以上です。

【質疑応答・意見】

以下、会長の指名により発言。

(帯広畜産大学 長澤学長)

- 帯広畜産大学は、地域の支えや協力を受けている大学であると改めて認識しました。
- これまでまちづくり会議で議論されてきた内容や方向性は、帯広畜産大学の取り組みである産学官金連携や企業等集積プラットフォームの構想に重なっているものと思っています。大学の方向性と帯広市が掲げているフードバレー構想、一緒に歩を進めていると思いながら聞かせていただきました。
- この4月から帯広畜産大学・小樽商科大学・北見工業大学の三大学は経営統合しました。これはまさに農商工連携であり、これからの産業に対応できる人材の育成を三大学融合しながら進めるというものです。こうした地域課題を解決する人材の養成のため、これまで以上に地域との連携を深めていきたいと思っています。
- 昨年、帯広畜産大学は、学生 1000 人当たりの地域の企業との共同研究数が、全国の大学で第一位であったと日経グローバルに掲載されておりました。これは、地域との連携が盛んにおこなわれている結果であると受け止めています。

(とち財団 金山理事長)

- 十勝・帯広の高等教育の充実に向けた具体的な内容を聞き、取り組みが進んでいるものと認識しました。
- いま 15 社が大学内にあるインキュベーションオフィスに入居しているとのこと。帯広畜産

大学の教員であった当時は、まだまだ少なく、地域の企業との連携が進んできているものと認識しました。

- 帯広畜産大学として、企業との連携、リカレント教育、食と農の分野における人材育成などを着実に進めてきたのであろうと感じました。
- 私自身は、コーネル大学、ウィスコンシン大学との連携に携わりました。畜大生も、海外の学生と学んだことで視野が広がったものと考えています。
- この10年間、帯広畜産大学を中心として高等教育機関の充実につながったと感じています。
- 高等教育を担っているところは帯広畜産大学のほかにもあり、今後は、そういうところとも、連携ということも必要となるのかと思いました。

(米沢会長)

- 高等教育ということ自体の考え方や捉え方、教育そのもののあり方が、この10年ほどでずいぶん変わってきたのであろうと思っています。
- リカレント教育という言葉もだいぶ耳にするようになりました。最近はリスクリングという言葉もでてきており、そこに対応する教育機関とは何か、一生涯の学びとは何か。そういう話になってきています。
- 本日は、10年前に大学誘致から考えを方針転換し、これまで進めてきた取り組みについて内容を確認しました。この確認を踏まえた上で、次回の議論に進めていきたいと思っています。

3 その他

【事務局説明】

- 本日の総会の結果を踏まえ、次回の総会にて「今後の十勝・帯広における高等教育の取り組みの在り方」の案を示します。

4 閉会

以上